

大鹿村議会だより

第1号 平成25年3月15日 発行:大鹿村議会 TEL:0265-39-2001

議会だより復刊に当たって

大鹿村議会議長 熊谷英俊

例年以上に寒く、雪の回数も多かつ

た冬が、ようやく終わりを近づけ、日差しが春らしくなってきました。

昨年十一月に大鹿村議会報告会を開催させていただき、村民の皆様から多くのご意見をいただきましたが、その中で議会だよりをぜひ出してほしいというご意見がありました。

議会だよりは昭和五十六年ころまで発刊されていましたが、その後は広報『おおしか』のなかで、議会定例会ごとの要点のみを報告する形に切り替わり、今まで継続されてきました。しかし字も小さく、情報量も十分でなかったため議会内で検討し、広報から独立した議会だよりとして復刊することとしました。

一般質問や委員会質疑等で、どのような審議が交わされたのか、といった内容をできる限りきめ細かく、村民の皆様にお伝えできれば、と考えます。

編集委員会や議会事務局などの体制が、大きな町村のように十分整っていない中で、議員みなで作る議

会だよりです。

あまり立派なものではありませんが、皆様からの感想やご意見をお聞かせいただき、手直しをしながら作ってまいりたいと考えますので、どうぞよろしくお願いいたします。



議会報告会鹿塩会場の様子

● 広域連合の動向について

二月二十一日、南信州広域連合議会、および全員協議会が開催されました。主な内容は次のとおりです。

・次期ごみ処理施設については、利用者の利便性や経済性を考慮しながら、処理方式等が決まりました。施設の候補地は、下久堅稲葉地区が最も適当であるとして、今後受け入れてもらえるよう協議します。平成二十九年十二月の稼働開始を目指します。

・二十五年度の主な事業は、地域の課題を検討する調査研究プロジェクトを立ち上げます。内容は次の通り。

- ①リニア中央新幹線のメリットを活かす地域づくり。リニア推進対策室を課↓部へ昇格。
- ②人材育成と高等教育機関の設置。
- ③看護師など医療関係従事者の確保。

● 下伊那北部総合事務組合

火葬場事業の状況について。現在施設の基本設計の検討中。設備業者は決定しました。用地は地域の皆さんの希望通り、組合が全部買い取ることにしました。

平成24年12月

大鹿村議会定例会報告

平成二十四年十二月大鹿村議会定例会が十二月十一日から十八日までの八日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告二件、付議事件七件、議員発議三件、すべて原案どおり可決・同意されました。陳情一件は採択、請願一件は継続審議となりました。

報告

報告第一号 平成二十四年度定期監査報告について
報告第二号 専決処分事項の報告について

議案第六号 平成二十四年度大鹿村介護保険特別会計補正予算(第三号)について
議案第七号 平成二十四年度大鹿村後期高齢者医療特別会計補正予算(第二号)について

付議事件

議案第一号 大鹿村暴力団排除条例の一部を改正する条例の制定について
議案第二号 大鹿村税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第一号 大鹿村議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について
議案第二号 大鹿村議会議規則の一部を改正する規則の制定について

議案第三号 平成二十四年度大鹿村一般会計補正予算(第四号)について
議案第四号 平成二十四年度大鹿村国民健康保険特別会計補正予算(第三号)について

議案第三号 安心できる介護保険制度の実現を求める意見書の提出について

議案第五号 平成二十四年度大鹿村営水道特別会計補正予算(第二号)について

請願

一、小渋橋を歩行者専用の橋にすることを求める請願書
村で橋梁の長寿命化修繕計画を考

陳情

一、安心できる介護保険制度の実現を求める陳情書
採択
(議員発議第三号で意見書提出)

一般質問

○北島千良穂議員
*鳥獣害対策について

【質問】 今年度、県の有害鳥獣駆除見回り隊により、三九〇頭のシカの捕獲ができた。二十五年でも県へ予算要望して実施してほしい。また、県下の市町村では有害駆除従事者(畏)について補助員をつけている。大鹿村でも補助員をつけてはどうか。

【村長】 今年度の県の事業について二つある。前段がシカ捕獲体制緊急整備事業で、県に隊員が雇用されて駆除に従事していただいたもので、大鹿村では有資格者が従事している。後段の補助員に関するものは集落ぐるみの捕獲実践事業で、別々の事業だ。非常にありがたい制度なので、ぜひ

二十五年度も実施していただくよう強く要望していきたい。ただし、大鹿においては有資格者である猟友会員の方々と相談する中で進めている。補助員についての支払いの件は、二つの事業のつき具合や内容もよく見きわめる中で考えていきたい。

【産業建設課長】 県の平成二十四年度シカ捕獲体制緊急整備事業で、大鹿村では九名が広域捕獲隊員として雇用されている。六月から九月までの四カ月間で三九一頭のシカが捕獲され、予想以上の成果。村としても、この事業が継続して実施されるように県に要望している。

同じく集落ぐるみの捕獲実践事業の中で、集落等捕獲隊の設置支援のメニューがある。現在、県下では三つの捕獲隊が組織され、飯伊地域では一団体が組織されている。大鹿村では二十三年度に猟友会の意見を聞いた折に、見回り時の事故の心配、狩猟免許新規取得者の減少の危惧等の意見があり、二十四年度の組織化を見送った。この事業は県下で非常に実績が上がっている。制度等の内容を再確認し、猟友会と相談しながら組織化できるよう進めていきたい。

【質問】 駆除対象のサルについては三

○頭と聞いているが、一〇〇頭ぐら
いまで駆除したらどうか。

村長 確かにサルの害はあちこち
らで聞いている。シカと違って防ぎ
ようが非常に難しいことも実感して
いる。駆除計画の協議会で協議する
中で、実施できる方向に向けて努力
していきたい。

質問 有識者だけの研究会でなく、
各地域には良い知恵を持った方々が
数多くいるので、テーマを持って地
域懇談会や研究会を行ってはどうか。

村長 話し合いを持ってということご
意見は、そのとおりと考えている。時
期は具体的には言えないが、話し
合って効果が上がるようなことをし
ていきたい。

○河本明代議員

*登山道の整備について

質問 南アルプスの高山だけでなく、
鬼面山や大西山、二兎山などに登る
お客さんも意外と多いが、大西山な
どは獣道が増えて登山道が分からな
いところがあったという声が寄せら
れている。遭難防止の意味でも、道
標を設置するなど登山道の点検・整
備を行ってはどうか。その上で、村
の観光案内にそうした低山も含めた
登山情報を掲載してはいいかがか。

また、南アルプスの鳥倉ルートに

ついて、今年は登山客が大変多く、
週末などは登山口駐車場に入り切ら
ない車が延々と路肩駐車していた。何
らかの対策が必要ではないか？

村長 私自身、趣味で山に入ること
があるが、昔よりも大きな獣道が縦
横に走っていることを実感している。
大西山については早急に対応をさせ
たいが、鬼面山は国有林内なので、
森林事務所と相談する中で、テー
プで巻いたりする形で表示させたい。

村で印刷しているパンフレットへ
の掲載は可能かと思う。また南アル
プス国立公園の大きな地図に大西山、
鬼面山の登山ルートは載っている。
鳥倉の登山口の件は、現在の位置
で大々的な対策をとることは非常に
難しい。落石防護対策を進める中で、
拡幅等ができるようならばそういう
対策はとりたい。

現在の終点付近は官行造林地だっ
たが、今度、村で購入するので、地
形等を見ながら駐車場等を広げるこ
とも考えてはみたい。丸茂タクシー
との争議の中でシャトルバスも検討
したが、採算に合わないという結果
が出ている。手前の広場あたりへ積
極的にとめていたかどうかのような対応を
考えることは必要かと思う。

塩の里で乗ってもらうというお話

も、あそこに案内板等を設置するな
どの方法はとれる。

*リニア計画への村長の方針、村民
の意見を聞く場を設けることについ
て

質問 リニア新幹線計画について、
具体的なルートが発表されてから対
策を考えるのでは遅いのではないか
ということ、村でも考えていると
思うが、村長としてどのような方針
で取り組まれるお考えか。また、リ
ニアへの対応を考えるに当たっては、
村民の声も聞いてほしいという意見
が出ている。村民の生活にとつても
影響の大きいリニアについて、村か
らの情報提供とともに村民の声を聞
く場を設けるべきではないか。

村長 基本の考え方は、平成二十二
年八月、国土交通省の交通政策審議
会鉄道部会の最初のパブリックコメ
ントにおいて、通過するだけなら不
要の施設、沿線自治体との十分な協
議を要望すると申し上げ、さらに景
観、環境には十分配慮されたい、ま
た工事期間中の環境対策には万全を
期してもらわなければならないことを
提出した。その後のパブリックコメ
ントでも、地形、地質上危険が多い
など常に申し上げて、話し合い等を
依頼してきた。村として景観、環境

は最も大事な資源なので、事業が実
施されるならば、それへの影響は最
小限にしようという要望を続けて
いる。

現在予想されるトンネルの坑口は、
釜沢方面、青木川方面の二カ所は最
低でも想定できる。二〇〇万立方メー
トルと言われる残土の処理について
一番懸念している。村内では地滑り
地域や保安林などの制限地が多く、
処理できる場所は大きなものはない。
天竜川方面への搬出が予想できるが、
カーブが多く狭いままの現状の道路
では、村民の生活は重大な影響を受
ける。これについては別の工事用の
専用道路をつくるとか、既存の道路
ならば十分な改良をしていただくよ
う求めている。また、村内の道路に
おいても、集落内での一方通行や狭
いところは通らないようにと要望し、
作業用の道路や別に何らかの運搬方
法を考えることを求めている。また、
温泉地を含めた水環境について十分
調査の上、回避等による環境への配
慮をした対策をお願いしたいという
ことも引き続き申し上げている。
いろいろな要望をお願いしている
中で何か具体的な前向きな回答を一
つでも引き出せればという期待を持っ
ていたが、それが今のところなく、

お話をする機会を失った。話し合いや説明が欠けていたというのはそのとおりかと思う。今後その話し合いについて組み立てたい。

※二月十九・二十日に住民意見交換会が開催されました。

○東村邦子議員

***村外通勤者通勤費補助事業について**

質問 通勤費補助制度に関して支給年齢制限延長要望の声が上がっている。他の町村を見てみると支給は四十五歳到達月、あるいは子どもの義務教育が終了するまでと幅を持たせているところもある。消防団優遇措置がとられたり、きめ細かい支給がなされている。限りある財源の中で「長く長く」でよいので、支給を延長していく考えはあるか？

村長 若者定住促進条例の中に「若者とは、四十歳以下」との記載があり、通勤費補助制度の基本になっている。子育てに関する面からは、子ども手当の支給が始まり、通学定期については今年度より無料にしたとか、いろいろな面で充実してきている。細く長く、また消防団優遇という意味のご提案は、先ほどのものもろの手当等以外も考え合わせて考えてみたいと思う。

質問 世の中の風潮として晩婚化が言われている。四十歳という年齢制限が妥当であるかを第一義にして、

もろもろの事業や条例を考えていたきたい。

村長 この件については過去何回かご質問を受け、一応四十歳という年齢について方向が私の中では定まっているかなと思う。

質問 通勤者の視点に戻って、冬の道路環境について言及させていたのだと、冬の凍てた朝の通勤、夜遅くの帰宅と、小渋線の道路環境はまだ未整備の状態といつてよい。道路標識や街灯の数、設置を考えるとほしいとの利用者の声を直接聞いてはどうか。

村長 道路の維持管理については、県のほうにその都度申し上げて対応してもらおうようにしているし、結構細かなところまで手を入れてもらっているかと思う。一番あの道路を使っている砂利運搬の皆様の声は一年に一回聞いて、一般車両の方々に迷惑をかけないような走り方をするにはという形で話し合いをしていた。個々の通勤者の皆さんの声等、議員さんを通じて話を上げてもらえば、だんだん対応できるかと思っている。

○矢澤正議員

***今期村政の総括と次期村長選に向けて**

質問 村長に就任されたときに何をしようと考え、それがどのくらい実行できたかの総括をお聞きしたい。

村長 四年前の選挙公報に六項目書いた。一番目が美しい村のルールづくりで、美しい村づくり条例をまとめることができた。また、大鹿歌舞伎の伝承も書いてあったが、映画や、特に近年、若い方が歌舞伎に携わってくれている。

二番目に活力ある村づくりということで農林業対策等、既存の生産物の振興、遊休農地の活用、観光案内の充実などが書いてあったが、ソフト面で農林団体への補助、協力隊の活用など、また観光案内所も別のところでできて、それなりの動きはできてきた。

安心できる支え合いというところで、子どもたちの遊び場が欲しいという話があったが、これについても施設整備、祝い金などのソフトの充実ができたかと思う。

治山治水道路改良事業などについては、ちょうど滝沢トンネルや流路工工事の完成に立ち合わせていた。また、ケーブルテレビのデジ

タル化は早く完了できた。

定住対策について、村営住宅の改修は現在継続的に実施している。さらに今年から空き家の対策も充実してきた。ただ、生活排水処理率は、あまり上がらなかった。

六番目にコミュニケーションだったが、景観条例と総合振興計画で二回ほど村内を回った。それで満足しているということではなくて、今期の第一の反省点だ。

また、財政的には、借金が基金より多かったが、現在は貯金のほうが借金より多くなっている。

話す機会が少なかったのは反省点だが、当時の選挙公報に掲げられたものについては、それなりにやってきたかと思っている。

質問 村長が「呼ばればいつでも行きますよ」と、上から目線で物事を言っているような感覚がある。他町村ではもっとソフトな形で村長や行政との懇談を行っているところもある。住民がざっくばらんに話し合える場をつくっていくのが本当にいい懇談会になるのではないか。

村長 村の皆さんとの話し合いが少なかったというのは、本当に申しわけなかったと思う。よく勉強させていた。きたい。